

1. 活動報告（事務局 記）

- 4月26日（日）現在、コロナウィルスの影響で、来月にかけての活動のめどが立っていません。ただし、ビオトープを維持するためには、作業が必要となります。このため、自主的に参加した会員により、少しずつ作業を行うこととなりました。草原ゾーン道路斜面の草刈り、除去草木の焼却、湿地帯の除草、その他の作業は、8名の会員によって行われました。なお作業に当たっては、会員間の距離を保つよう、配慮しました。
- 5月3日（日）活動は、本来は中止（コロナ対策）となっておりましたが、希望者により臨時作業を行いました。倉庫の整理（不要金物の搬出）、除去草木の運搬および焼却、トノサマガエルオタマジャクシの移動（ヨケジ→蓮田）の作業は、13名の会員によって行われました。なお作業に当たっては、会員間の距離を保つよう、配慮しました。
- 5月16日（土）片山水路組合の溝普請に参加 会員3名
井堰～第一水戸の間管理道と水路の草刈り整備・水車水路までの溝あげ作業をしました。
- 5月17日（日）希望者により臨時作業を行いました。駐車場斜面の草刈り、水車注水口のやぐら組み立て、除去草木の運搬および焼却、トノサマガエルオタマジャクシの移動（ヨケジ→湿地）の作業をしました。参加した会員は、14名です。作業および協議に当たっては、会員間の距離を保つよう、配慮しています。なお作業前には、6月7日に予定している田植えについて協議いたしました。
- 5月18日（月）～21日（木）水車リニューアル後の給水塔やため池の水位アップ作業
会員2名

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行事

- 5月30日（土）維持活動（田植え準備、溝上げ・草刈り）田んぼの注水開始
※代掻き・整地は一応田植の3～4日前に実施
- 6月6日（土）稲作体験・田植えの前準備（稲苗受領・田植え機搬入試運転）16:00から
- 6月7日（日）稲作体験・田植え（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会を招聘）
- 6月20日（土）維持活動（草刈り）
- 6月27日（土）維持活動（草刈り）

3. 来訪者の声

★4月25日(土)春の生き物を探しにきました。メダカ、おたまじゃくし、ヤゴを見つけました。コロナの影響で、なかなか出かけられませんが、春の空気をたくさん感じられ、リフレッシュできました。 矢野、森山(自然観察隊)

4. 会員の声 「水車のリニューアル」(副会長 田村 勝芳 記)

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会の20周年を記念して水車がリニューアルされました。ビオトープのシンボルとして訪れた人を出迎えることとなります。やまぐち元気生活圏活力創出事業から助成金を受けて径4mのものが完成しました。給水は二俣瀬の駒の頭を取り入れて行われます。里山ビオトープ二俣瀬をつくる会のコンセプトである自然環境教育の場、市民憩いの場、二俣瀬のアピール、がこれで再現されると思います。

5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(51) コミスジ *Neptis Sappho* (タテハチョウ科)

2019年の7月号(会報217号)に紹介したホシミスジのそっくりさんですが、このチョウは県内どこにでも見られます。オオミスジ、ミスジチョウ、ホシミスジ、コミスジとミスジチョウ4種類の中でも一番小さく、4月の終わりごろより10月中旬ごろまで見られます。

食草はフジ、クズ、ナンテンハギ、ハリエンジュなどのマメ科の植物などで、県内どこにでも見られますのでチョウも多いようです。平地～低山地の樹林地帯やその周辺、農地や公園などに多く、深い森の中には少ないようです。5月、7月、9・10月に多く見られますので、5月や9・10月の行楽シーズンにはハイキングなどでは見られるかもしれません。



コミスジ♂



ビオトープにて

参考文献

須田真一・永幡嘉之 他、2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327pp. 日本チョウ類保全協会. 東京.

工藤誠也、2018. 美しい日本の蝶図鑑. 335pp. (株) ナツメ社. 東京.

6. 会よりの連絡事項

1) 今年の稲作体験「田植え」について

今年は「新型コロナウイルス」の問題から田植えの方法を色々と検討し、最近行われている田植機をメインに使った方法で行う事になりました。したがって従来とは昔ながらの手で植える方法は少なくなります。これにより密集での作業を避けたいと思います。

また例年行っていました泥落とし（ひざ癒し）の飲食は行いません。時間的にも集まる時間を少なくしたいと思いますので了承ください。

7. 編集後記（大野 靖子 記）

コロナウイルス感染予防のため、3月から休校中の小学生の娘には、この期間中、定期的に学校からたくさんの宿題が出されました。そのうちの 하나가、家の周りの春の生き物について観察し、その内容を絵と文章でA4用紙一枚に記すことでした。庭には小さなバッターやシロツメクサにミツバチなど見られるようにはなりましたが、観察して文章にしやすいのはやっぱりツバメの巣です。5月初旬には親鳥が卵を温めているようで、下から見上げると親鳥のしっぽが巣からのぞいて見えるだけでしたが、うまい具合に娘は絵で表していました。他には私たちの様子を電線からうかがう親鳥の様子や、ツバメの鳴き声などを書いたり。ところがここ数日になっても、雛がかえった様子が見られず声も聞こえず、親鳥もなかなか近づかず。え？今年うまくかえらなかったのかなと心配しましたが、ひょいっと朝見ると、ひな鳥が何羽か巣から顔を出していました。昨年巣立つときは巣からあふれるほどで始終姿が見えていましたが、今はまだ小さいから親鳥が来ない間は巣の底に引っ込んでいるということでしょうか。何はともあれうれしく、今年も無事に巣立ってほしいと思います。